

# 技能職人「20歳若返り」



多様な製品の最終仕上げに使う精密ヤスリで国内シェア95%を誇る

## 負けたまるか

調達されるための取り組み

「安芸の10リ」という。ハリ、イカリ、クサリなど「リ」の付く広島県の特産物を指す。その代表格のヤスリは、モノづくりを支える縁の下の力持ち。広島鑪製造所の中洲紀子社長は「表には出ないけどなくてはならない存在」と表現する。過当競争にあつた一般ヤスリから精密ヤスリに転換したのは先代社長。3代目の現社長は技能職人の平均年齢を20歳も若返らせた。人材力を武器に、精密ヤスリ分野で高シェアを確保している。

## 広島鑪製造所

▷社長=中洲紀子氏▷住所=広島県呉市仁方  
棧橋通1511の18▷電話=0823・79・5671▷資本金=1000万円▷従業員=20人▷設立=1937年(昭12)

精密ヤスリ製造

## 加工機械 自社で改良・開発

広島鑪製造所は「魚地球印」のプロ仕様の精密ヤスリメーカー。製造するヤスリは、標準仕上げから顕微鏡が必要なくらいの小さな目のものまで120種類以上。国内シェア95%を誇る。円高をもとめせず海外15カ国に輸出している。用途は製品や部品の最終仕上げ工程が多い。ユーザーは自動車、機械、プラスチック、精密情報機器、楽器など多種多様だ。「思わぬところで我が社の製品に出合う。最近になって初めて宝飾店で使っていることを知った(中洲社長)と幅広い。100%が商社・代理店経由での販売だけに「すべてのお客さまを把握していないが、知らない、見えないユーザーとは製品の信用でつながっている」と話す。

## 技術のブラックボックス化徹底

高いシェアは、技術と設備に由来する。「絶対に他社がまねがけない」という設備は、海外から加工機械を導入後、オリジナル仕様に改良した。ほかにも自社独自の開発機器ばかり。メンテナンス時も社外に持ち出すのは交換部品のみと、徹底的に技術をブラックボックス化している。



独自開発の製造装置で技術をブラックボックス化

そして、ユーザーからの信頼、高シェアを支えるのが技能職人だ。20数工程のラインの要所に熟練社員を配置している。創業以来、「モノづくりは、人づくり。機械だけでは決してものづくりはできない」との考えを貫いている。ただ、中洲社長は先代から社長を引き継いで5年、従業員の平均年齢を60数歳から40歳台半ばまで若返らせた。ベテラン職人を辞めさせたわけではなく、若い技術者を増やした結果だ。「募集しても、油まみれの職場には若い人は来ない」と周囲の声もあったが、「やってみないとわからない」と募集すると、多くの応募があつたという。この採用活動を通じて「職人の世界は向き不向き。20人いれば1人は職人としての才能がある人がいる」ことを再認識したという。また、「技術伝承は着実に進展しているほか、若い人や女性が増え、職場は

でもヤスリの形状は大きくは変わらない。ローテク製品のように思われがちだが、詰まっている技術は想像を超えたもの。これを使つて仕上げる製品の良否を左右する極めて重要な工具だ。「だからこそ品質が問われる。モノづくりに欠かせないヤスリと向かい合っている」と使命感が強くなっているというのが技能職人のモチベーションだ。

ユーザーにはブランドの「魚地球印」はつとに有名。必然的に価格の安い類似品、模倣品が出回る。しかし、「使うのもプロの職人。すぐに違いに気づきお客さんが帰ってきてくれる」。究めた技術は必然的に選ばれるようだ。

(広島・正伝盛豪)